



看護ケア推進たより 6号

こんにちは **KKS21** です
KANGOKEASUISHIN
2015年2月

高橋看護部長 ひまわり褒章受賞

2014年10月15日に高橋弘枝看護部長がひまわり褒章を受賞されました。ひまわり褒章では、出産・育児・母子保健の現場で顕著な活躍をされた方々や、当該分野における自治体の政策や企業・団体の積極的な取り組みを表彰しています。高橋看護部長の長きに亘る助産師としての母子保健分野におけるご活躍が評価されて受賞されました。



祝う会で師長・副師長と記念撮影

祝う会を通じて、私たちも看護部長のように病院だけでなく、地域に貢献できる広い視野を持った看護師を志す決意を新たにしました。

連載 / vol.1

老人看護専門看護師「伊坪さんが行く！！」

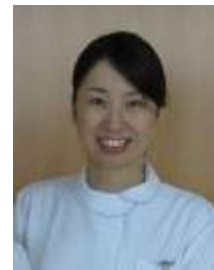
せん妄・認知症患者対応夜勤をはじめ8か月が経過しました。夜勤帯で対応が必要となる患者さんの傾向が出てきたように思います。まだきちんとしたデータとしてまとめられていませんので、今回のお話は主観的なお話であることご了承ください。今後データをまとめ、発表する機会を設けたいと考えています。

急遽対応が必要となるのが多いのは、

- ①病状が急激に悪化する前の患者さん（がんターミナルの方など）
- ②疼痛コントロールがうまくいっていない患者さん
- ③不眠が続いている患者さん
- ④認知症があり、入院して間もない患者さん
- ⑤認知症があり、何らかの症状（疼痛・下痢・便秘など）があるが、うまく伝えられない患者さんなどです。①②については治療に関するところですから、医師との連携が重要となります。また③～⑤については看護介入だけでも対応可能なところですから、一緒にケアを考えていきましょう。



中濱副師長さんに聞いてみました！



Q. 糖尿病看護認定看護師、資格取得のきっかけは？

前勤務先で糖尿病患者さんへの看護に携わるようになりました。血糖コントロール不良で入院してこられる患者さんに一生懸命食事療法や運動療法の指導をするのですが、患者さんは実施に至らないことや、実施しても療養行動が続きません。そして、再び血糖コントロールが不良になっては入退院を繰り返す・・・といった患者さんに沢山出会いました。「どう看護したらいいのだろう」という思いが強くなり、自分の関わりを振り返った時、一方的に指導していたことに気付きました。もっと糖尿病患者さんへの看護について学びたいと思っていた時に認定看護師の学校を上司から勧めていただき認定看護師を志すことになりました。

Q. 具体的な活動を教えてください。

【直接患者さんに関わる支援内容】

- 血糖測定やインスリン導入時の支援
- 血糖測定器の選定支援
- 血糖測定やインスリン手技の習得が難しい場合の調整
- インスリンポンプ療法を行っている患者さんへの支援
- 妊娠糖尿病の方への支援
- 糖尿病をもちながら生活するための退院へ向けた支援
など



患者さんとの面談風景

【その他】

- インスリンチェックリスト・血糖測定チェックリストの見直し
- インスリンポンプ使用緊急時のチャート作成
- 血糖コントロール指示表の改訂
- 委員会活動（栄養サポートチームの一員として週 1 回チームでのラウンド、委員会活動として栄養委員会、看護部の教育委員会、倫理委員会、在宅支援実行委員会、栄養管理実行委員会や看護ケア推進会議、糖尿病委員会、フットケアチームミーティングなど） など

Q. 今一番力を入れて取り組まれている活動は何ですか？

今は、まだ病院に慣れていないこともあり、十分活動できているとは言えませんが、糖尿病をもちながら生活なさっている患者さんが自分らしく過ごせることができるように支援させていただくことです。院内だけに留まらず、地域の方々と連携し支援ができるよう更に力を入れて取り組んでいきたいと思えます。

加えて、糖尿病内科医師、前田糖尿病看護認定看護師らと共に血糖コントロール指示表の改訂を行い、インスリンのインシデント・アクシデントの減少を目指しています。

「第6回 JCHO 大阪病院 ケア連携の会」開催報告



新しいインスリン製剤について情報提供する
前田糖尿病看護認定看護師

はじめに、前田結香糖尿病看護認定看護師から事例で用いられた新しいインスリン製剤についての情報提供を行いました。インスリン製剤の特徴について知る機会となり、「患者様の生活に合わせ選択することが可能だと知った」「これを機に学びたい」等の意見が寄せられました。

続いて、中濱多紀糖尿病看護認定看護師からの事例提供をもとにグループワークを行いました。多職種様々な立場からの活発な意見交換となりました。糖尿病をもち生活する独居高齢者の方への継続的な支援においては、地域との連携は不可欠です。また、患者様のQOLの維持・向上を図るためには多職種が協働しケアを繋いでいくことが重要になると再確認することができました。今後も「繋げようケアの力！ 広げようケアの輪！ 高めようケアの質！」を合言葉として様々なテーマでケア連携の会を企画する予定です。



事例報告する中濱糖尿病看護認定看護師



活発な意見交換が行われたグループワーク



事例検討に参加いただいた宮田糖尿病担当部長

「ピンクリボンキャンペーン」 活動報告



昨年10月に「ピンクリボンキャンペーン in JCHO 大阪病院」を開催しました。自己検診啓発ティッシュ 3000個を来院者や職員に向けて配布しました。受け取られた読者の方、自己検診は実施されましたか？

10月22日(日)に、平日の検診が難しい26名の方に乳がん検診を行いました。

日本人女性の16人に一人が罹患すると言われている乳がん。早期発見できれば完治が期待できるため、乳がん検診が“もっと当たりまえ”になる時代へ向けて、ブレストチームはこれからも邁進します。

(乳がん看護認定看護師 今井康乃)



自己検診啓発ティッシュの配布の様子
「受けよう！乳がん検診」

「世界糖尿病デーイベント in JCHO 大阪病院 2014」開催報告



菊地薬剤師作成の経口血糖降下薬の作用を示した模型

11月14日の世界糖尿病デーを受けて、「糖尿病デーイベント in JCHO 大阪病院 2014」を開催いたしました。11月10日は血糖測定や糖尿病内科医・コメディカルスタッフの相談コーナー等のメインイベントを実施しました。11月14日には運動療法士によるロコトレを行いました。また、1階薬局前や内科外来には、糖尿病に関する手作りポスターを展示しました。多くの方にご参加いただき、糖尿病について考えることのできたイベントであったと思います。

(糖尿病看護認定看護師 前田結香)



ロコトレの様子。ロコトレとは、ロコモーショントレーニングの略で運動器症候群、寝たきり予防のトレーニング



糖尿病委員会メンバーで取り組みました